

【算数】

<学習内容>

◆折れ線グラフ（教科書 55 ページ～57 ページ）

(1)教科書 55 ページにある、月別の降水量を表すぼうグラフに重ねて、月別の気温を折れ線グラフに表そう。

まず、グラフの左側に、めもりに当てはまる気温を書いてみよう。グラフ左側のめもりに合わせて、折れ線グラフをかいてみよう。



ちがう種類のグラフを、組み合わせて表すこともあるよ。

(2)ぼうグラフと折れ線グラフ、2つのグラフを見て、気付いたことを、ノートか取組シートに書こう。

例えば、「雨の量が多い月や少ない月の気温」を調べてみよう。



学校での授業が始まったら、グラフを見て気付いたことを話し合っ
て、友達からもどんなことに気付いたのか聞いてみたいね。

<時間があったらやってみよう>

(3)教科書 56、57 ページの折れ線グラフ【まとめ】にチャレンジしてみよう。

<保護者による関わり方のポイント>

◆折れ線グラフ（教科書 P55～57）

- ・「折れ線グラフ」の学習は、理科の「天気と気温」の学習でも活用することができます。
- ・棒グラフや折れ線グラフは、今後の日常生活でも使われることがあります。保護者の皆様が、子どもが気付いたときなどには、「よく気付いたね」と認めたり、「このグラフってこんなことが分かるね」という話題でお子さんと話したりすることは、子どもにとって学習する意欲を高めることにつながります。

※インターネット上にある「まなびリンク『折れ線グラフツール』」で、折れ線グラフをつくることもできます。

（教科書の4ページに、QRコード・HPアドレスがついています。）